

問題 1. 角化型扁平上皮癌

症例：44 歳、女性。不正性器出血。

検体（採取法）：子宮頸部擦過（サイトピック）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VS では、壊死性背景がみられる。 ○
2. VS では、腺系異型細胞がみられる。 ×
3. VS では、表層型異型細胞がみられる。 ○
4. HPV と強い関連性がある。 ○

解説

まず、44 歳という年齢、不正性器出血という主訴より考えられる頸部病変としては、強度の子宮腔部びらん・上皮内腫瘍（CIN1-CIN3）・原発浸潤癌（扁平上皮癌・腺癌）・転移癌など種々ものが含まれる。

本例では、壊死性背景の中に表層型～深層型の異型細胞集団が、平面状～軽度の重積性を持ち出現している。

表層型異型細胞は角化を示し、核の大小不同・クロマチン濃染を認める（図 1）。また、軽度の重積性を示す細胞集団では N/C 比の増大、核間距離不整、核の多形性が存在する（図 2）。一見、腺系異型細胞の様にみられるが、核は中心性に存在し柵状配列は見られず核小体も不明瞭で、腺癌ではなく扁平上皮癌と考えられる。重積性のある細胞集団を見た場合、腺癌の存在も考慮すべきであるが、個々の細胞の詳細な観察により鑑別は可能である。

最終診断は角化型扁平上皮癌であった（図 3, 4）。これらが HPV と関連性があることは周知の事実である。

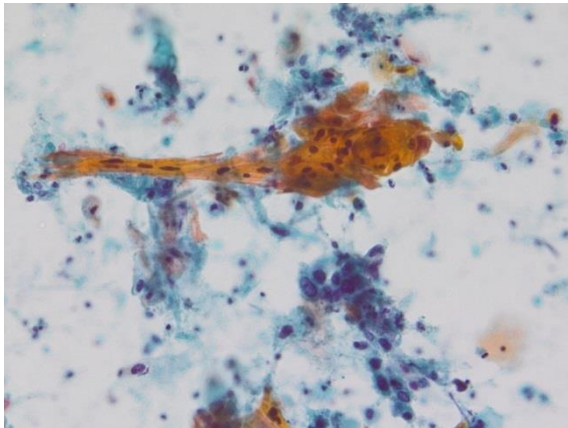


図 1

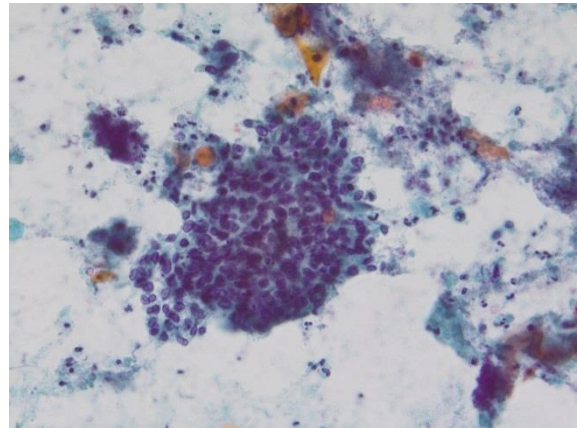


図 2

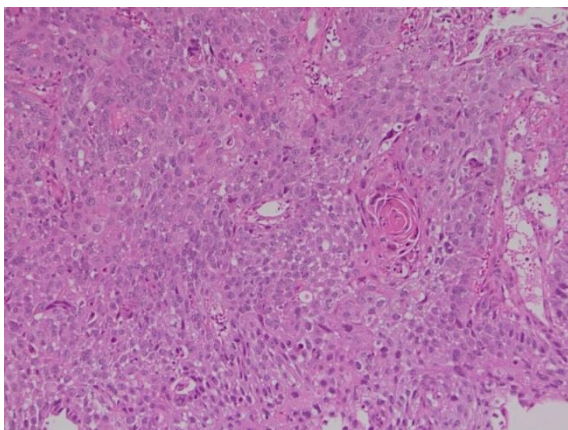


図 3

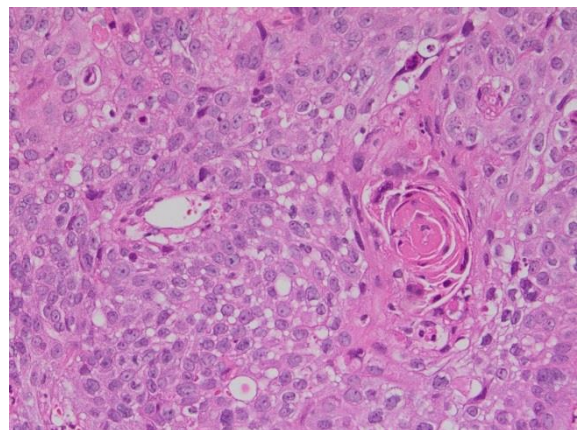


図 4